



鮮やかな景色や不思議なものに包まれ、マネキンさながらのボーシングをする男女。デジタルアート作家の Sho_maa です。二人は益城町で生まれ育ちました。九州各地のさまざまな名所を背景に、非現実的でファンタジックなデジタルアート作品を作成しています。

二人の作品は若者に人気の写真共有アプリなどでも配信され、国内外を問わず多くの人にフォローされています。現にフランスのテレビ番組にも取材を受けました。趣味で撮影していたファッション写真をよりアーティストティックに昇華させたいと思い、2年

前から現在のスタイルになつたそうです。仕事を抱えながらデジタルアート作家として活動していたさなか、起きた熊本地震。二人とも被災し、生き延びるための日々を追われました。創作意欲も失い活動を休止していた中、県内外から駆けつけた支援者の善意に触れるうちに「熊本のために自分たちもできることをしたい」と思い、活動で培った経験をもとに始めたのが、マネキンのように街頭でボーシングをし、募金活動をする「スタチューパフォーマンス」でした。

炎天下でも街頭に立ち、これまで九州圏内の12か所と東京の新宿駅で行いました。「益城町のいいところをもっと世界に発信し、復興の後押しをしたい」と二人は意気込んでいます。



さまざまなバックグラウンドを持った若者が集まり、益城町の未来について真剣に討論しました。

デジタルアート作家
Digital art creator

Sho_maa



下通りの街頭でパフォーマンスをし、募金活動を行う二人。

益城町未来トーク

10年後の町の理想像(目標)

- 全ての人々が平等に情報を得られる社会に
- 10年後、熊本県と言えば益城町に!
- 益城に住んでいる人が、誇りや魅力を実感していること!
- みんなが交流できる場が沢山ある
- 日本一安全な楽しく歩ける道
- カップルの幸せオーラが漂うような町に!
- 住民が交通で選択肢が広がり、豊かに生活できる町。
- 昼より明るい益城町。
- 小さな事でも町民の意見が反映される町に。
- 交流人口が増え、にぎわいのあるまち。
- 若者が無駄なことができる場所を作り、町全体に活力をつくる。
- 目的地が「益城」に。
- 「益城」と言えばいう事ができる。
- MASHIFES2026(熊本に縁のあるアーティストによる音楽イベント)
- 知って、来て、好きになる

各グループから挙げた「10年後の町の理想像(目標)」

